

3. まちづくり

(1) まちづくり全般

- ① 地域の歴史・文化が壊されるのではないかとの懸念
- ② 地域のまちづくりに貢献し、地域の発展や活性化に寄与することへの期待
- ③ 外環の整備に伴い、周辺のまちづくりの計画がどのようになるのかとの懸念
- ④ 地域の人交流できる憩いの場の創出への期待
- ⑤ 環境施設帯に遊歩道を設置するなど、有効活用への期待
- ⑥ ジャンクション部利用の工夫などにより外環整備によって利点が享受できる計画となることへの期待
- ⑦ スポーツ広場やゲートボール場など交流の場が失われることへの懸念、代替施設への期待

○これまでに頂いた意見

- 八幡神社のフタ掛け部の移設。
- 民具、農具、博物館などを作る。資料館併設の公会堂。
- 市民のいこいの場として認知されている施設(スポーツ広場、ゲートボール場)を今ある場所に近い所に設置。(ふたかけした緑地上の)。
- 道の駅ならぬ三鷹の里をつくる。都市農業の野菜販売、紹介。
- 最新土木技術や環境の学びや見学の場となる施設の配置。
- 市民農園の指導、管理を農家の新たな収入源にする。
- 直売施設を充実させ、北野の農業を振興する。
- 外環整備をするなら、環境施設帯は単なる緑地だけでなく、花(桜)の名所にしたり、人が来てくれるような場所として観光などに活用し、地域へのメリットを生み出す。
- 生活道路の通行機の確保とともに、地域の人々が楽しく散策できるよう、環境施設帯に遊歩道や自転車道を設ける。
- 地価の低下を防止するため、特に地価下落が予想される給田 5 丁目など第一種低層住居専用地域の用途地域の見直しを行い、建ぺい率及び容積率を上げる。
- 外環整備により生活道路への通り抜け車両の増加や、地域分断が懸念されることから、高齢者や車椅子も安心して移動ができる、バリアフリーの視点で道路整備、まちづくりを進める。
- 外環の地表部分に覆いをするのであれば、覆いにソーラーパネルを貼るなどして積極的に外環整備によるメリットを生み出せるとよい。
- 換気塔からの排気で発電するなど、外環の整備によりプラスの効果が生まれるように考えるべきである。
- ジャンクション上部に蓋をかけて大きな環境施設帯をつくれれば、排出ガス対策や緑化だけでなく防災基地としても活用できる。高速道路と直結しているため災害物資の輸送などに有利であり、外環の価値を高めることができる。

(国)

- ▶ ジャンクション周辺地域などにおいて、健全な市街地の整備を図り、公共の福祉の増進を図るためには、外環の整備に合わせてまちづくりを進めていくことが重要であると考えています。まちづくりを進めるにあたっては、地域のみならず、地域のみなさまの意見を聴きながら、地域の歴史・文化を象徴する施設や資源の保全及び活用を図れるよう、区市並びに関係機関と連携していきます。

▶ 事業実施の各段階で地域のみなさまの意見を聴きながら、地域特性を勘案して、区市のまちづくりの計画に合わせて検討を実施します。

外環 事業プロセスにおける検討時期
 調査・設計 用地取得 工事中 供用後

(国、都)

▶ 中央ジャンクション部の事業実施に伴い、現況のコミュニティに影響が生じる箇所については、分断道路の機能を補完する道路や蓋かけ部の有効活用等により影響を極力小さくするよう事業者ができる限り蓋かけを整備します。蓋かけ部の上部の整備については、設計段階から、地元の意見を十分に聴きながら公園または緑地的な利用が可能となるよう検討してまいります。これらの整備主体や整備後の管理主体については、関係区市と十分協議します。

外環 事業プロセスにおける検討時期
 調査・設計 用地取得 工事中 供用後

▶ ジャンクション周辺地域の良好なまちづくりの円滑かつ効率的な進捗を図るため、必要に応じて区市のまちづくりの支援や協力を努めていきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期
 調査・設計 用地取得 工事中 供用後

参考:外環(千葉区間)における環境施設帯の整備事例

外環の千葉区間において、環境施設帯を利用して緑化を行った事例です。



松戸市美切地区モデル道路



松戸市美切地区モデル道路

資料:首都国道事務所ホームページ

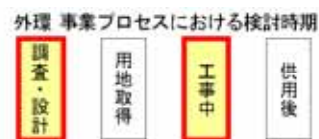
- ⑧ 越境入学、行政区変更など緩和策への期待
- ⑨ 外環整備に伴い、歩道・自転車専用道路などの整備も併せて行うことなどによって、住環境がよくなることへの期待

○これまでに頂いた意見

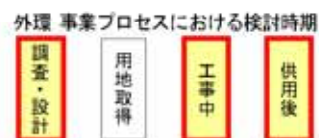
- 通学区域の柔軟な対応。世田谷区へ通学。
- 学校と老人施設の総合的な建物を考える。教育と福祉の統合。
- 行政区をかえて町づくりを考える。

(国)

- 通学路や生活動線及びバス路線の確保について、現状を十分把握し、区市と一緒に地域のみなさまの意見を聴くとともに、バス事業者など関係機関と協議しながら、機能の確保を検討していきます。



- 生活道路への進入に対する通過交通対策等として、生活道道路における、速度抑制や自転車・歩行空間の確保のためのハンプ・狭さく等の設置や歩行空間のバリアフリー化などの整備が必要となった場合には総合的な対策を実施できる「くらしのみちゾーン」等の事業制度の情報提供など、区市と連携し適切な役割分担のもと、通過交通の流入制限等の措置について検討を進めていきます。



※「くらしのみちゾーン」事業制度:

外周を幹線道路に囲まれている等のまとまりのある住区等において一般車両の地区内への流入を制限して身近な道路を歩行者・自転車優先とするなど交通安全の確保と生活環境の質の向上を図る取り組みに対し、その計画策定費や事業費の一部について補助する制度。

(2) 地域分断

- ① 吉祥寺通りや北野中央通りなどが分断されることにより、バス等公共交通の機能が失われ移動の利便性が低下するのではないかと懸念
- ② 生活道路が分断され、歩行者等の移動の利便性が低下するのではないかと懸念
- ③ 地域のコミュニティが分断するのではないかと懸念
- ④ 通学路が分断されるのではないかと懸念
- ⑤ 上下水道等のライフラインの機能が確保されるか懸念

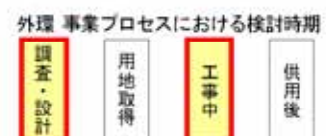
○これまでに頂いた意見

- 計画道路と工事道路、生活道路の整備を進める事により地域分断しない様にする。
- 多くの人が利用出来る大型コミュニティを作る。
- コミュニティバスの増設。
- 学校の区分の整理をする。
- 環境施設帯を横断して生活道路を三日月地域につなぐことにより、三日月地域の孤立化、緑ヶ丘地域コミュニティの分断を軽減できる。
- 吉祥寺通りの機能を回復し、地域分断への懸念を解決できるように、掘割部にブリッジをかけて環境施設帯を通過する道を通す、ランプを下げるなど詳細な検討をしてほしい。
- 通学路が分断されることを懸念している。三日月地域から緑ヶ丘小学校への通学路を確保してほしい。
- 外環により生活道路が分断されるので利便性を確保するために環境施設帯に側道を作ってほしい。環境施設帯は緑だけでなく、人が通れるようにしてほしい。
- 生活道路が分断されてしまう。中央ジャンクション上部等を活用して、生活道路をできるだけ活かしてほしい。
- 外環整備によりバス通りである吉祥寺通りが分断されてしまうが、通学・通勤でバスを利用する住民のために、代替ルートをつくり、バス通りの機能を確保する。
- 環境施設帯を利用して設置する側道には、通学路の安全を確保するため、歩道を設ける。

(国)

➤ 外環、中央道及び仙川で囲まれた三日月地域については、環境施設帯の設置等による環境対策、蓋掛け部の有効活用等により、現況のコミュニティ、生活環境に生じる影響が極力小さくなるよう検討を行います。あわせて、沿線地域のまちづくりの観点から、住民の意向を十分に聴きつつ、計画的な土地利用が図られるよう検討していきます。

➤ 吉祥寺通り、北野中央通り等、分断道路の機能を補完する道路の整備にあたっては、行き止まり道路の状況、周辺的生活道路の状況を把握したうえで、地域のみなさまの意見を聴きながら、区市とともに検討し、それまでの利便性の低下が生じないよう機能確保に努めます。



▶ バスルートである吉祥寺通りや北野中央通り等の分断対策として、バスルートの確保については、現状を十分把握したうえで、区市と一緒に地域のみなさまの意見を聴くとともに、バス事業者など関係機関と協議しながら、機能の確保を検討していきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期
 調査・設計 用地取得 工事中 供用後

▶ 通学路や生活動線の確保について現状を十分把握し、区市と一緒に地域のみなさまの意見を聴くとともに、関係機関と協議しながら、蓋かけ部を含むジャンクション部の利用などにより機能(通学路及び生活動線)の確保を検討していきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期
 調査・設計 用地取得 工事中 供用後

▶ ジャンクション及びインターチェンジの設置にあたり、ライフライン等の地下埋設物が分断される場合は、当該機能を確保するための代替施設について、地域のみなさまに影響を及ぼさないよう管理者と十分協議していきます。

⑥ 三日月地域内の生活道路の機能が確保されるのかとの懸念

○これまでに頂いた意見

- 三日月地域が孤立することに懸念がある。三日月地域が孤立しないように、この地域につながる道を確保してほしい。

(国)

▶ 中央ジャンクション部の事業実施に伴い、三日月地域等の現況のコミュニティに影響が生じる箇所については、環境施設帯などを活用した分断道路の機能を補完する道路を確保します。

(3) 土地利用

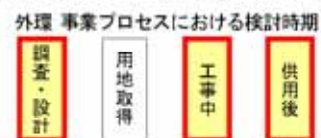
- ① 外環の整備によるインターチェンジ・ジャンクション周辺部における土地利用の変化についての懸念
- ② 地域の農地の減少の懸念
- ③ 地区公会堂などのコミュニティ施設や文化施設、地域交流広場等の施設整備への期待
- ④ 蓋かけ部が公園や農園、里山など地域交流が活性化する計画となることへの期待

○これまでに頂いた意見

- 東八道沿線地域を特別用途地域に指定(大型店舗、風俗など)。
- ふたかけ部分に新たな農地を作る 体験農園を作り、地権者の農家が運営する。
- ランプ部分にできるだけ蓋をかけ、環境施設帯とともに地域施設(ボール遊びのできる広場等)として活用する。活用案は住民参加で考える。それにより、①騒音が軽減される、②地域分断が解消される③住民参加で計画することで、地域のニーズにあった施設が生まれる。
- 東八インターチェンジができることにより、周辺の農地が物流センターに変わるなど土地利用が変化するのではないか。土地利用を規制して防ぐことができないか。
- スポーツ広場には、自転車・歩道を入れてつくる。
- 換気所もつき山にしてしまっって鎮守の森のようにしたらどうか？
- 中央高速下はオープンにする。フェンスで区画しない。
- 産直センターを作る。
- SA 設置して地下に商業施設を作り地域の活性化をする。
- ジャンクション橋脚部の下に駐輪・駐車場を設ける。
- 仙川に親水公園をつくる。
- ジャンクション中央部の上の中央道をふた掛けして公園にして見た目をよくする。

(国)

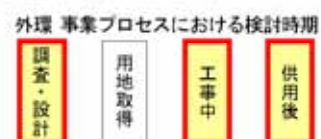
➤ 中央ジャンクション及び東八道路インターチェンジでは、現段階では料金所をはじめとして堀割り構造で計画していますが、具体的な設計に際しては構造や換気設計、交通安全を考慮しつつ、できるだけ蓋かけ構造を採用し、地域での有効活用が図られるよう検討していきます。



➤ 中央ジャンクションの整備により減少する農地への対策については、関係権利者のみなさまや周辺の農地所有者などに対して意向調査を実施し、関係機関の協力を得ながら代替農地の確保、斡旋及び情報提供並びにそれらに関する仕組みづくりの検討などを実施していきます。

(国、都)

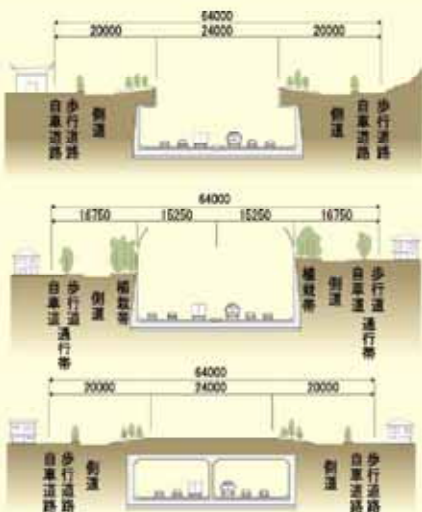
➤ 中央ジャンクション部の事業実施に伴い、現況のコミュニティに影響が生じる箇所については、分断道路の機能を補完する道路や蓋かけ部の有効活用等により影響を極力小さくするよう事業者ができる限り蓋かけを整備します。蓋かけ部の上部の整備については、設計段階から、地元の意見を十分に聴きながら公園または緑地的な利用が可能となるよう検討してまいります。これらの整備主体や整備後の管理主体については、関係区市と十分協議します。



第3節 中央ジャンクション周辺地域

参考:外環(埼玉区間)における整備事例

外環の埼玉区間では、蓋かけをおこなうことで、地域分断による影響を極力小さくする工夫をしています。



① 蓋かけの事例 (埼玉県和光市南2丁目)

② 蓋かけの事例 (埼玉県和光市南1丁目)

参考:第二京阪道路における整備事例



資料:浪速国道事務所ホームページ